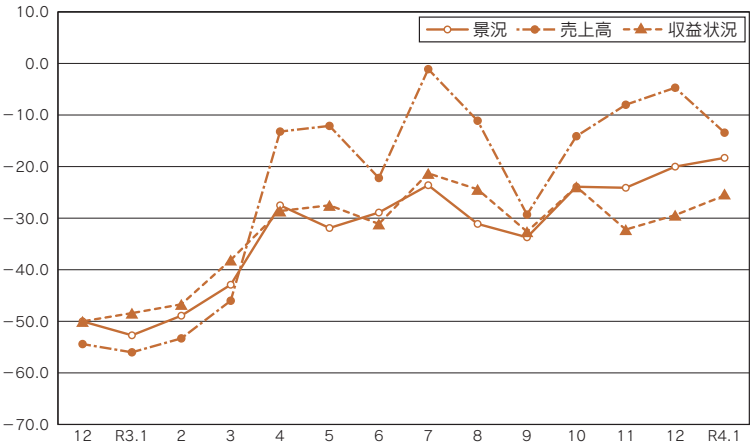
1月の道内景況　情報連絡員レポート

新型コロナウイルス変異株感染拡大の影響　先行き不安感強く

概　況

「景況」、「収益状況」は、緩やかな回復傾向が見られたが、「売上高」はマイナスに転じ、弱い動きとなった。情報連絡員報告によると、製造業は、依然として原油高の影響による原材料の高騰、製品価格への転嫁などの対応に苦慮している。非製造業では、新型コロナウイルス変異株の感染拡大の影響が、個人消費へのマイナス要因となっており、今後も、感染拡大の長期化を懸念する声が多い。また、今回の記録的な大雪は、運送業を中心に大きな影響を及ぼした。

主要 DI の推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	12月	1月	前月比	12月	1月	前月比	12月	1月	前月比
業界の景況	△20.0	△18.3	1.7 ↗	△12.5	△3.4	9.1 ↗	△24.5	△26.4	△1.9 ↘
売上高	△4.7	△13.4	△8.7 ↘	△6.3	△24.1	△17.9 ↘	△3.8	△7.5	△3.8 ↘
収益状況	△29.4	△25.6	3.8 ↗	△28.1	△31.0	△2.9 ↘	△30.2	△22.6	7.5 ↗
販売価格	20.0	13.4	△6.6 ↘	15.6	10.3	△5.3 ↘	22.6	15.1	△7.5 ↘
取引条件	△9.4	△9.8	△0.3 ↘	3.1	0.0	△3.1 ↘	△17.0	△15.1	1.9 ↗
資金繰り	△5.9	△11.0	△5.1 ↘	△3.1	△13.8	△10.7 ↘	△7.5	△9.4	△1.9 ↘
雇用人員	△17.6	△14.6	3.0 ↗	△12.5	△13.8	△1.3 ↘	△20.8	△15.1	5.7 ↗

（凡例）　30以上　10～29　9～△10　△11～△29　△30以下

天気図の見方　各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（DI）をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。

製造業

・味噌出荷量（道内）；単月（令和３年12月）　前年対比　92.5%
醤油出荷量（道内）；単月（令和３年12月）　前年対比　90.7%
・令和３年１月～12月の道内・累計出荷量；味噌　前年対比　95.0%
醤油　前年対比　95.5%
・令和３年１月～11月の全国・累計出荷量；味噌　前年対比　97.2%
醤油　前年対比　100.1%
・12月単月出荷量は味噌・醤油ともに良くない。１月～12月の累計出荷量も前年対比、それぞれ95.0%、95.5%と厳しい結果。全国と比較しても、見劣りがする数字になる見込み。業務用出荷量の回復が、一つのカギとなるので、新型コロナウイルスの感染拡大の早期収束を待ちたい。
（味噌・醤油／全道）

・トドマツ原木は、消費量が増加し製品の引受は旺盛となっている。価格が上昇傾向にある。また、国有林材の調達が出来ている工場でも不足感が出てきている模様。カラマツ原木は、入荷量に比べて消費量が増加していることから慢性的な原木不足は、解消されていない。紙原料は、製材工場がフル稼働している関係で背板チップに陰りが出ている。木質バイオマス原料については、順調に集荷されている。先月と大きく変わらず、外材の高騰も高止まり模様。コンテナ不足等により輸入製材の入荷が遅れていることから道産建築材は引き合いがある。今後も北米材、欧州材共に高止まりで推移すると予想される。
（一般製材／全道）

・原木入荷量が少し増えたことで在庫が前月よりは増えたものの前年比９割程度。
＊製材単価の見直しを行って頂いたことで前年同月比111%になっているが、仕入単価は119%になっているため、収益状況は改善されない。
（一般製材／上川）

・１月の生コン出荷量はおよそ157千㎥。（前年同月比86.6%）
・地域別には、前年同月を上回った分会（協組）は29分会（協組）中、15分会（協組）で前年（増加は13分会（協組））を上回った。前年同月と比較して、増加したのは北渡島、釧路、岩宇など。一方、減少したのは札幌、苫小牧、千歳地区などであった。（生コンクリート／全道）

・北空知地域では、降雪により除雪作業が昨年より減少していることから、売上が減少している。砂利の動きは殆どない。（砕石／全道）

・ガラス及びサッシ工事店は、どこも手持ち物件数が数年来なかったほど少ない状況。同一物件の見積依頼がこれまでよりさらに数件ほど多くの業者から依頼されることが多くなってきている。ガラス業界も建築業者と同様に資材高騰の先を見通すことが出来ず、見積有効期限で悩んでいる。（ガラス／全道）

・造船工業会が出した数字は、昨年末までに鋼材価格が1.6倍に高騰し、新造船船価は1.2倍で船価上昇後に受注した船の建造が始まっても鋼材価格が今のようなままでは採算は厳しい状況。業績が回復に向かうのは23～24年度以降と予想される。
・昨年から新造船業に句切りをつけ修繕船に特化した造船所も出ている。
（金属製品／室蘭）

・大雪の影響により荷受け・発送に支障をきたしている。（金属機械工作／全道）

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

・１月前半までは新型コロナウイルスへの警戒心が緩み、百貨店や商業施設の来店客が増加したことで売上は好転。後半に入り感染拡大が顕著になると消費活動は急低下したが、前半の貯金で前年対比では売上増加となった。商品によっては今後百貨店等からの返品増加が懸念されている。資材の高騰、ガソリン価格の高騰で仕入れや物流のコストが増加し、収益は低下。（各種商品／札幌）

・１月27日からのまん延防止措置による影響があり、各加盟店は売上が減少。当町においても、感染者が発生し続けている状況であり、来店客数の減少が著しい。
・まん延防止は２月20日までとあるが、延長した場合の資金繰りを懸念している加盟店も多い。（各種商品／日高）

・１月取扱高は、前年比104%にて少し増加
１月はアフターコロナでの商店街に買い物客が増加したが、食料品の値上げ傾向と景気不安から大きな買物の賑わいとはならなかった。取扱い増加には燃料価格高騰による要因も大きい。（各種商品／胆振）

・１月は大型店に入店する店舗においては初売りセールの相乗効果も手伝って売上は好調に推移、一方路面店においては苦戦。業種別では、前月同様女性向け衣料品、化粧品等を扱う店舗がプラス、メガネ店もプラス、時計、貴金属系はマイナス、ガソリン、灯油を扱う組合員店では販売価格の高騰からプラスとなっているものの、利幅が圧迫され収益はマイナス。（各種商品／釧路）

・年明け以降、徐々に徐々に拡大し、この一か月でまん延防止等重点措置の適用までになってしまったコロナだが、ここ函館朝市においても大きな打撃となっており、年末にかけて盛り上がっていた活況に水を差さされた格好となった。12月に販売し完売し７「函館朝市プレミアム付商品券（利用期限１月末日）」の影響もあり、序盤は観光客も含め少し回復が見え始めていたところだったが、オミクロン株が騒がれてからは、一気に閑古鳥が鳴く日々が続き、閑散期が明ける春まで、また不安な日々に逆戻りとなってしまった。
（各種商品／函館）

・組合全体前年比92.2%、食品スーパー関連業種の前年比91%、ホームセンター89.4%、一般店99.1%。大雪の影響、コロナの影響、灯油等の高騰で厳しい１月だった。（各種商品／芦別）

・１月は雪の影響で移動、納品が遅れて売り上げが減少。仕入れも入荷が少なく、苦戦を強いられている。マグロ、サーモン、エビ、カニ、ホタテの単価が昨年末より上げっており、現在も上昇している。（各種食料品／道央）

・１月は例年客足が伸びず閑散期であるが、予想以上によくない。札幌圏からの来客が少なく、新型コロナウイルス「オミクロン株」の感染拡大、「まん延防止等重点措置」適用の影響が色濃い。（各種食料品／小樽）

・売上高対前年比107.57%の実績
・前年比は多少の好転は見込まれる。
・飲食店の営業自粛に伴い、青果納品は厳しい状況。（野菜・果実／札幌）

・１月は原油価格が値上がりの為、卸価格が上がり小売店の販売価格も改定された模様。収支状況は従来と同じく量販店に影響され厳しい利益口銭で推移、利益は圧縮状態。（燃料／旭川）

・SSにおけるガソリン価格も同様に上昇傾向にあり、月末には１リットル170円を超える高値となった。また、灯油も一部地域では１リットル110円の高値となっている。一方、安値市況が続く一部激戦地では、地場中小零細企業の経営は引き続き厳しい状況（燃料／全道）

・卸価格の上昇は落ち着き、横ばいで推移しているが不安定な状況は変わらない。コロナ感染症拡大の影響で、訪問先への訪問も困難、ガス機器等の販売にも影響している。（燃料小売業／稚内）

・燃料の高騰、コロナ再拡大など、１月から厳しい状況の中ですが、各農家への令和４年度の営農計画におきまして、新しい農業の提案をしているところです。
①スマート農業、AI、ドローン、無人トラクター等
②コロナ後の農業、農機の在り方、今までの販売の見直し等
（農機用機械器具／全道）

・大雪の影響もあり、小売りは若干の低下。商品の自動車は不足しているので、価格が上昇気味である。（中古自動車／札幌）

・昨年度から続く品不足がまだ解消されていなく、春の準備に影響が出ている。
（自転車・自動車／全道）

・12月売上高は、５億8,218万円（前年同月比0.5%増）。
・１月共通駐車券の利用は、前年同月比106.4%、買物共通バス券は、前年同月比23.9%。新規感染者が急増、まん延防止措置の適用で、飲食店休業など厳しい状況が続いている。（各種商品／帯広）

・単純な前年比較は前月同様に宿泊入込数、売上ともに増加だが通常期との比較は５割減少。１月初旬からの感染者急増に伴い、新規の予約が停滞、まん延防止が発令されるとともに１～３月までの予約キャンセルが増え数千人にも及んでいます。コロナによる影響は２年と続き、宿泊、観光事業を継続していく事が困難。（旅館／十勝）

・オミクロン株の感染拡大増加で入浴者利用の減少の不安とそれに加え営業用燃料の高止まり及び光熱費その他備品等の値上は、営業者にとっての負担は非常に厳しい。（公衆浴場／全道）

・オミクロン株による第６波の感染拡大がいつまで続くのかの予測が難しい中で、道外企業からのシステム開発受託案件の増加に加えて、道内企業でも業務の効率化や生産性向上のためのデジタル化へ移行するシステム開発案件が増えている。この傾向は来期以降も続くと予測されることから、３月期決算を迎える道内中小IT企業の多くは増収を確保が見込まれる。技術人材不足を解消するための採用コスト増や賃金上昇によって利益インパクトが出る反面、出張旅費や交通費の削減で生み出される利益によって、増益となる道内中小IT企業が多く、来期も増益状態が続くと期待されている。問題は自社内で新型コロナウィルスの感染者や濃厚接触者が発生して、受注したシステム開発案件業務が中断して、業績へ致命的なダメージが出ないようにすること。技術者の感染防止回避のために、プライベートの生活面までを含めて十分すぎるくらいに注意喚起するIT企業がほとんどとなっている。（ソフトウェア／全道）

非製造業（建設・運輸業）

・民間工事においては来年度に実施するために動きは出てきているが、詳細に関してはあまり明確化されない状況のものが多い。コロナウイルス他、様々な要因により、資材の調達や価格交渉、人員の確保、労働者の労働時間などの調整等がかなり難しくなり、工事物件の話が当初の予定通りに進んでいかない状況になってきている。また、各工事現場や職場においてコロナウイルスのオミクロン株による感染拡大により、自宅待機を余儀なくされる人も増えてきており、企業としての活動が更に苦しい状況。（電気工事／全道）

・年明け１月２日～５日に低温による水道管凍結の修理が多く発生し、各業者は一日中対応に追われた。水道凍結の対応においては、休日の場合には当番業者を決めていますが予想を超えた場合には他の組合員は休みのため対応に苦慮している。（管工事／名寄）

・1．売上高　前年同月比　12.26%　増加
2．乗務員数　前年同月比　10.2%　減少
3．12月分チケット取扱高　前年同月比　45.9%　増加
（一般乗用旅客／旭川）

・１月下旬からの新型コロナウイルス陽性者が1,000人を超えた頃より組合員にも陽性者及び濃厚接触者がめずらしくない状況となり配送業務に支障。宅配関係も大雪により支障が出てる。（一般貨物自動車運送／全道）

・燃料価格が高騰し収益を圧迫している。（一般貨物自動車運送／苫小牧）

・荷動きについて
①農作物については、作柄、量がともに悪かったため、輸送量は減少している。
②一般雑貨・日用品についても低調な状況が続いている。
③燃料以外の消耗品の価格、物量は落ち着いてきたが、燃料価格が上昇しており、経営状況は良くない。（一般貨物自動車運送／石狩）